

聖マリア病院を過去に受診された、または現在受診中の皆様へ

聖マリア病院では、皆様の診療情報等を利用し、下記の研究を実施しております。

研究内容につきましては、社会医療法人雪の聖母会、研究倫理審査委員会にて承認されたものです。本研究の対象者に該当される可能性のある方で、研究について詳細にお知りになりたい場合や診療情報等を研究目的に利用してほしくない場合は、下記の問い合わせ先まで、ご連絡をお願いいたします。なお、解析用のデータが確定（データ固定）している場合は、研究データから情報を削除できませんので、ご了承ください。

① 研究課題名	外来作業療法頻度が橈骨遠位端骨折術後の治療成績に及ぼす影響 (第二報)
② 実施予定期間	承認後 ～ 2026年3月31日
③ 対象患者	対象期間に当院で橈骨遠位端骨折と診断され、掌側ロックプレート固定術を施行された方のうち、術後から外来リハビリまでを当院で受けられた患者さん
④ 対象期間	2017年1月1日 ～ 2023年3月31日
⑤ 研究機関の名称	社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院
⑥ 対象診療科	整形外科
⑦ 研究責任者	氏名 高島 広樹 所属 リハビリテーション室
⑧ 使用する資料等	診療情報等より下記事項を調査します。 年齢、性別、受傷側、受傷日、手術日、入院日数、骨折型(AO分類)、ターニケット時間、リハ実施期間、入院リハ実施単位数・外来リハ頻度(総単数)、外固定期間、退院時(もしくは術後3週)・術後6・8・10・12週・最終時の前腕および手関節の関節可動域、握力、DASH Score、HAND20
⑨ 研究の概要	本研究は橈骨遠位端骨折術後の外来リハビリの回数(単位数)が、関節可動域の回復に影響を与えているかを調査します。以前は橈骨遠位端骨折術後の外来リハビリ頻度を2~3回/週程度実施していましたが、covid-19の影響により、当院では感染拡大予防を目的に外来リハビリの頻度を1回/週に低減しております。そこで本研究では外来リハビリの回数制限を設けていなかった時期と、1回/週に回数制限を設けている時期で、術後の関節可動域の回復状況を定期的に比較し、結果の検証を行います。
⑩ 研究計画書等の閲覧等	研究計画書及び研究の方法に関する資料を他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で入手又は閲覧できます。詳細な方法に関しては下記の問い合わせ先にご連絡ください。
⑪ 結果の公表	学会や論文等で発表いたします
⑫ 個人情報の保護	個人情報を保護するために責任者を設定します。研究する際、個人の特定につながる情報は、当院で特有の番号に置き換えて(このことを「匿名化」と言います)管理します。学会等で発表する場合も、個人を特定できる情報は使用しません。

⑬ 知的財産権	聖マリア病院に属します	
⑭ 研究の資金源	なし	
⑮ 利益相反	研究結果に影響を与えるような利害関係はありません。	
⑯ データの2次利用	本研究で得られたデータ等の2次利用により新たな研究を行う場合は、改めて研究計画書を作成し、再度研究倫理審査委員会の審査を受けます。	
⑰ 問い合わせ先・相談窓口	聖マリア病院 リハビリテーション室 高島広樹	
	電話	0942-35-3322